

No.33

2010.1.15

いしかわ の遺跡

縄文暮らし体験



石器を使い、山野の恵みで

暮らした縄文の時代...

人々の生活は「知恵」「ワザ」「祈り」の伝承でした。

平成21年5月24日(日)に開催した、古代体験学習講座『縄文暮らし体験』では、縄文の衣装に身を

つつんでタイムスリップすると、住居づくりには欠かせない石斧での木の加工や、獲物を求めて弓矢での狩猟体験、そして手に入れた獣肉や山菜を石製のナイフで調理するなど、縄文人の四季に学び、その暮らしを体験していただきました。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

古代体験

「縄文暮らし体験」

体験ひろばでの「衣」「食」「住」にかかわる体験をとおして「縄文の暮らし」にふれた後、午後には“縄文ポシエットづくり”や“土偶(どぐう)・土面(どめん)づくり”から、縄文工芸の「ワザ」や「祈り」といった「こころ」にも、せまっていたいただきました。

現代とは違った“豊かさ”の中で育まれた「知恵」や「ワザ」。参加者の皆さんの「こころ」にも、響くものがあつたことでしょう。



午後は
縄文ポシエット
& どぐう・どめんづくり



アングン編み体験も

古代体験ひろば 体験工房

古代体験ひろば “体験工房”では、まが玉づくり、火おこし、古代衣装試着など、古代に関係するいろいろなメニューが体験でき、未就学児から大人の方まで、幅広い年代に利用されています。特に、休日には、多くの家族連れが来館されて、古代の道具やワザにふれるとともに、親子のふれあいの場として、おおいに賑わいをみせています。

体験メニューは、人気のまが玉づくりや火おこしなどの年間を通した常設メニューのほかに、縄文ポシエットづくり、組みひもづくり、脱穀体験などの月ごと(季節ごと)に替わるメニュー(HPをチェックしてね!!)もあります。また、大型連休や夏休みなどに実施する「手形・足形&王者のかぶとづくり」「はにわづくり」「いろ・色・まが玉づくり」などの期間限定メニューがあります。

これらのメニューは、年中無休(年末年始を除く)で、体験できます。また、事前の予約は必要なく、開館時には常時体験が可能ですので、気軽に、お立ち寄りください。

みんなで、古代の道具やワザにふれてみませんか！

そして、古代にタイムスリップしてみましょ！

「古代衣装試着体験」



「火おこし体験」

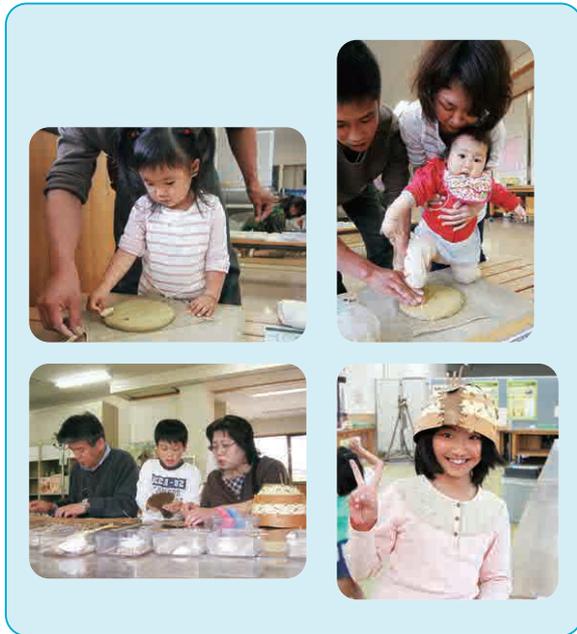


古代体験ひろば 体験工房 期間限定メニュー

平成21年の春から秋にかけて、期間限定で実施した3つのメニューを紹介します。

春のゴールデンウィーク(4/25～5/6)には、「手形・足形&王者のかぶとづくり」を実施しました。手形・足形づくりでは、お父さんが子供を抱きかかえながら、足形をとったり、貝殻などの模様付けを教えたりする風景がみられ、親子のふれあいを特に感じた体験でした。縄文時代の出土品に、手形・足形の土製品がありますが、端にひもを通すための穴があることから、子供の健やかな成長を願ったお守りのようなものだったとも考えられています。今も昔も、親が子を思う気持ちは変わらないものなのでしょう。体験ひろばの一角には、かわいい手形・足形が並んでいますので、ぜひ、ご覧に来てください。

「手形・足形&王者のかぶとづくり」



夏休み(7/18～8/10)には、毎年恒例の人気メニューである「はにわづくり」を実施しました。今年は、例年以上に多くの家族連れが来館され、連日順番待ちで列を成していました。体験では、粘土ひも(粘土を棒状にしたもの)を積み上げる古代のワザで、高さ30cm程のはにわを製作しました。その数、約1,100体にもものぼり、本館ホールを埋め尽くすほどでした。それぞれに体験者の個性が表れ、顔・形が異なるものの、どれもが、愛くるしい表情に仕上がっていました。

「はにわづくり」



「いろ・色・まが玉づくり」



秋のシルバーウィーク(9/19～9/23)には、「いろ・色・まが玉づくり」を実施しました。ピンクやグリーン、グレーの3色の“特製まが玉”と、指の操作だけで色あざやかな“組みひも”をつくり、組み合わせで完成となります。まが玉の石材を、お父さんと協力しながら、砥石で削り、形を整える子供、指のひもを掛けかえて製作する組みひもでは、最初はぎこちないものの、慣れてくると、テンポよく指を動かす子供など、親子で製作に夢中になる風景が、連日、みうけられました。

出前教室

平成21年度「親と子の発掘体験教室」

今年の親と子の発掘体験教室は、平成21年7月25日(土)白山市宮保館跡・宮保B遺跡、平成21年8月8日(土)白山市高見遺跡の2回が開催され、それぞれ21組45名、20組43名の参加者がありました。

宮保館跡では、時折強い雨が降りあいにくの天気でしたが、その時間を利用して出土品見学会を行い、時代背景もまじえて詳しい解説をしました。鎌倉時代の武士の館跡から出土した土器や陶磁器、銅銭など、実際に手で触れて観察することが

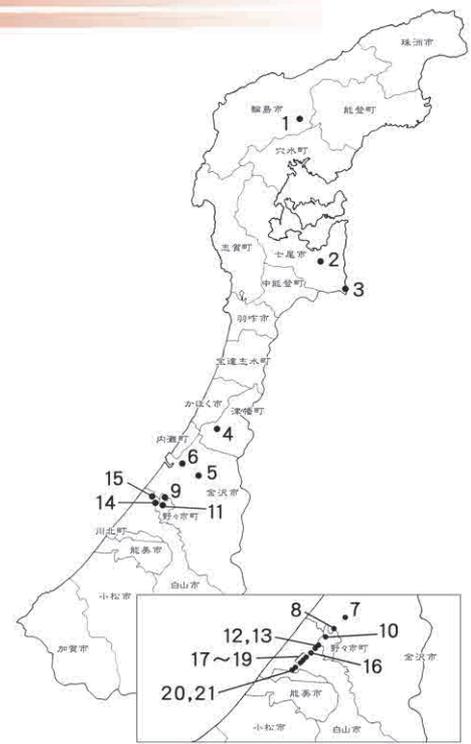


とできたので、午後の発掘には、期待を持って臨むことができたようです。

高見遺跡では、強い日差しの中、根気強く、発掘作業を行い、古代の溝などの調査をしました。出土した土器を洗った後は、それらを観察し、絵や文章でレポートにまとめました。職員が驚くほど、詳しく記録をとり、質問をする熱心な参加者が多く、終了式で渡された認定証どおり、「こども考古学者」がたくさん誕生しました。

平成21年度発掘調査遺跡

No.	遺跡名	所在地	主な時代
1	興徳寺B遺跡	輪島市三井町興徳寺	平安、中世
2	七尾城跡	七尾市小池川原町	中世
3	大泊A遺跡	七尾市大泊町	縄文～中世
4	加茂遺跡	津幡町加茂	縄文、弥生、奈良・平安、中世
5	丸の内7番遺跡	金沢市丸の内	近世
6	南新保E遺跡	金沢市鞍月東2丁目	弥生・平安
7	神田遺跡	金沢市神田2丁目	弥生、古墳
8	八日市D遺跡	金沢市八日市1丁目	弥生、奈良・平安、中世
9	長池ニシタンボ遺跡	野々市町長池町	弥生、中世、近世
10	二日市イシバチ遺跡	野々市町二日市町	弥生、中世
11	末松廃寺	野々市町末松2丁目	奈良・平安
12	横江D遺跡	白山市横江町	弥生～中世
13	五歩市遺跡(新幹線)	白山市五歩市町	弥生、古墳、近世
14	五歩市遺跡(海側幹線)	白山市五歩市町	弥生～中世
15	中新保遺跡	白山市中新保町	奈良～中世
16	松任城跡	白山市相木町	奈良・平安
17	成町遺跡	白山市成町	弥生、古墳、中世
18	北安田南遺跡	白山市北安田町	弥生、奈良、中世
19	高見遺跡	白山市北安田町	弥生～近世
20	北出遺跡	白山市米永町	中世
21	宮保館跡・宮保B遺跡	白山市宮保町	奈良・平安、中世



北陸新幹線関係遺跡(金沢市・野々市・白山市)

まいぶん出前考古学教室

埋蔵文化財センターの考古資料を活用した「まいぶん出前考古学教室」は、歴史授業を支援する体験型学習で、「縄文人の暮らしにふれる」と題したテーマ体験などを実施しています。今年度も4～5月に18校40クラスの生徒(総数1300名)に実物と体験を重視した教室を提供しました。

県内遺跡の出土品にふれながら、古代衣装「貫頭衣」を試着した生徒の気持ちは、すでに縄文時代へタイムスリップ、黒曜石の切れ味を知り石器でクルミを割ると、多くの生徒は自然と共生した縄文人の暮らしを理解してくれます。また、最後の火おこしではモミギリ法の難しさから、各班とも苦戦することから発火したチームでは大喜び、大歓声を聞いたところで楽しい体験の区切としています。

また、夏休みの前後には、小学校の保護者会や地区の公民館での教室も開催しました。



「のとを掘る」・「かがを掘る」をテーマとした「まいぶん出前張り」は、成人向けの移動講座です。平成19年度から開催し、今年度で3年目となります。

平成21年7月5日(日)の羽咋市歴史民俗資料館では、聴衆の方々に会場が満員となり、能登へ向かう古代道路の発見、大伴家持の能登巡行の報告を聞いた市民は、羽咋の古代遺跡から出土した県教委が発掘した出土品にも興味を示され、熱心な質問が交わされました。

平成21年7月12日(日)の白山市の会場では、古代の駅路と加茂遺跡、扇状地の道と遺跡の関わりに強い関心が寄せられました。





いしえびと

第11回 いしかわの発掘展 「モノの記憶～古人の知恵・ワザ・ところ～」

第11回いしかわの発掘展「モノの記憶～古人の知恵・ワザ・ところ～」は、平成21年7月17日～8月31日の間、本館の研修室及びホールを会場に開催しました。

今回の展示では、発掘調査で発見された遺構や遺物といった「モノ」に刻み込まれた「記憶」を、見学者の皆さんと一緒に探し出すことを目的としました。

展示の導入部となるホールには、「縄文土器カルテ」として一つの縄文土器から、その土器を詳しく観察することで、土器のさまざまな利用法といった「知恵」、土器を思いどおりの形につくり、焼き上げる「ワザ」、土器に表現された形、文様、モチーフなどから想像される「ところ」を読み解くことが出来ることをご覧いただきました。

研修室では、メインとなった「漁労・狩猟」、「採集・加工」、「斧と木工」、「モノから知るところ」という4つのテーマで約200点の遺物を展示しました。石のやじりや鹿の角で作られた釣り針、クリやどんぐりなどをすり潰した石皿や木を加工する石斧などは、詳しく観察して調べると、古代の人々が、当時の環境に対応したさまざまな営みの中で、獲得し受け継いでいった多様な技術を解き明かすことができます。

今回の展示は主に旧石器時代から弥生時代にかけてのものをとりあげましたが、発掘調査や考古学の研究からわかる事はごく一部です。それでも来館者の皆さんには、はるか昔のご先祖が、ハイテクノロジーの時代に生きる私たちも驚かされる「知恵とワザ」を持っていたことを理解して頂けたと思います。そしてその「知恵とワザ」を用いてつくられたたくさんの「モノ」には、それをつくった人々の思いや当時の文化性、世界観などといった古人の「ところ」を感じていただけたのではないのでしょうか。

第11回 いしかわの発掘展

平成21年
7月17日(金)～
8月31日(月)

モノの記憶
古人の知恵・ワザ・ところ

会場
石川県埋蔵文化財センター(入館無料)
金沢市中戸町18-1

開館時間
9時～17時(入館は16時30分まで)

交通案内
北鉄バス 末町バス停下車 徒歩15分

問い合わせ
財団法人 石川県埋蔵文化財センター
TEL 076-229-4477
E-mail mail@shikawa-mabun.or.jp

主催
石川県教育委員会



「これは何の模様？」



展示導入部



「あっちも見たいよ」

収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。
今回のテーマは「石に刻まれた知恵とワザ」です。

収蔵品No.20

磨製石斧製作資料 ー羽咋市 吉崎・次場遺跡ー

弥生時代の磨製石斧は、大陸系磨製石器と呼ばれています。木を切り倒す為に使われた太型^{ふとがた}蛤^{はまぐり}刃石斧、木を加工する為に使われた扁平片刃石斧^{へんぺいかたば}と柱状片刃石斧^{ちゅうじょうかたば}があります。

吉崎・次場遺跡では、弥生時代中期前半から後期前半にかけて太型蛤刃石斧の製作を行っています。磨製石斧の製作工程は、原石を粗割して石斧の大まかな形を作り出し(粗割成形)、周囲から打撃を加えて石斧の形や法量に近づける(剥離成形)、敲打^{はくり}によって表面の稜を潰して形を整え(敲打整形)、砥石で磨いて表面を平滑(研磨^{けんま})にして刃をつけて完成します。下の写真は、当遺跡から出土した太型蛤刃石斧の製作にかかわる石器です。原材料は、遺跡から9kmほど北に位置する志賀町大島周辺などが採取地と想定されており、重量がある大型な石材を利用して規格性の高い磨製石斧が製作されています。また、磨製石斧の各段階の製作工程資料と共に、敲打整形に使われた球状敲打具や研磨に使われた砥石などの工具も出土しています。

吉崎・次場遺跡の資料は、太型蛤刃石斧のさまざまな未成品や工具等が数多く出土し、原材料の採取地と石斧を製作した区域が想定できることから、北陸地方のみならず全国的にも貴重な資料と言えます。



訪ねてみよう能登・加賀の遺跡

県指定史跡 うけつかごし 宇気塚越1号墳

宇気塚越1号墳は古墳時代前期の古墳で、かほく市宇気地内、河北潟を望む通称“塚越”と呼ばれる台地上に造られています。昭和47年の石川県鑄鍛団地造成工事の際に発見され、発掘調査が実施されました。1号墳の他に4基の古墳と縄文時代から平安時代の集落跡などが見つかっています。1号墳は保存され公園として整備されています。

古墳は前方後方墳と呼ばれる形をしています。前方部は長さ4m、同前端部幅5m、くび括れ部幅4m、後方部は15×13mとこのタイプの古墳としては小型です。墳丘の高さは前方部0.5m、後方部2mと大きな差があります。埋葬施設は木棺を取めたと思われる土坑が後方部で見つかり、中からてつぞく やりがんな鉄鏃、鈍、ガラス小玉などが出土しています。また、後方部東側の周溝から底部に穴をあけた壺、装飾された壺、高杯などの土器が出土し、墓に関係するまつりが行われたと考えられています。

古墳は墳丘が復元され、周溝部分と埋葬施設が玉砂利敷きで表現されています。近くには国指定史跡で、県内ではじめて見つかった縄文時代中期の上山田貝塚も整備されており、あわせて訪ねられ、この地域の人々の営みに思いをはせて見るのも楽しいかと思われます。



古墳全景



古墳遠景



古墳周辺の航空写真

所在地：かほく市宇気

交通：JR宇野気駅から車で5分

お問い合わせ：かほく市教育委員会生涯学習課
電話 076-283-7137